



病気に強い水稲New「ミネアサヒ」を開発

—ブランド米「ミネアサヒ」がいもち病にとっても強くなりました—

開発の背景・ニーズ

昭和55年に本県が開発した「ミネアサヒ」は食味が良いことから人気が高く、県内で約1,500ha（県内作付面積の5.4%）で栽培され、そのうち約1,400haが中山間地域での作付けです。しかし、「ミネアサヒ」は夏に冷涼な地域で発生しやすい「いもち病」に弱いため、生産者から、いもち病に強い品種の育成が要望されていました。そこで、「ミネアサヒ」に、いもち病に対する抵抗性を導入した品種の開発に取り組みました。

成果の内容

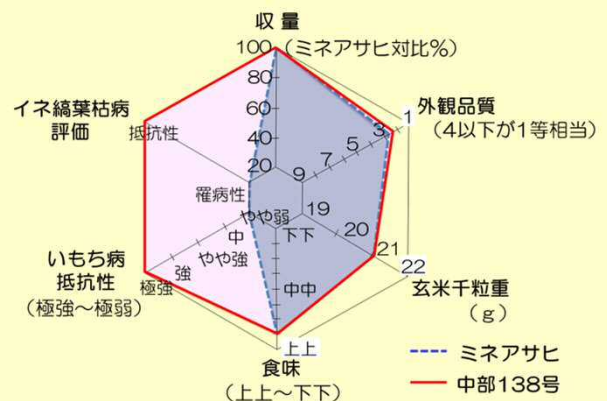
いもち病抵抗性遺伝子*Pb1*、*Pi39*とイネ縞葉枯病抵抗性遺伝子*Stvb-1*を保有するイネに「ミネアサヒ」を5回交配して、病気の抵抗性以外は「ミネアサヒ」と同じ特性の新たな「ミネアサヒ」（「中部138号」）を開発しました。その特徴は、以下のとおりです。

- いもち病に極めて強く、イネ縞葉枯病にも抵抗性を有しています。
- 出穂期、成熟期は「ミネアサヒ」と同日で、草姿も同様です。
- 収量性は「ミネアサヒ」と同等で、玄米の粒大・外観品質も同等です。
- 食味は「ミネアサヒ」と同等で優れています。

本品種は、平成29年3月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。



いもち病の発生比較（防除を行わなかった場合）
左「中部138号」、右「ミネアサヒ」



愛知県農業への貢献

本品種を普及させることにより、「ミネアサヒ」ブランドを維持しながら、いもち病防除薬剤削減による低コスト栽培が可能となります。さらに、「ミネアサヒ」の高い食味評価に加えて、減農薬栽培の付加価値もあわせた有利販売が期待できます。